

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

気管支学 (2006年1月) 28巻1号:76ページ.

PDT症例の蛍光観察により新たに発見された6病変の検討

澁川紀代子, 中西京子, 佐々木高明, 中田寛章, 黒田光,
中尾祥子, 高橋早織, 高橋政明, 高橋啓, 長内忍, 中野均,
大崎能伸, 菊池健次郎

5. PDT 症例の蛍光観察により新たに発見された 6 病変の検討 濫川紀代子, 中西京子, 佐々木高明, 中田寛章, 黒田 光, 中尾祥子, 高橋早織, 高橋政明, 高橋 啓, 長内 忍, 中野 均, 大崎能伸, 菊池健次郎 (旭川医科大学医学部第 1 内科)

【背景と目的】1999 年以降に光線力学的治療 (PDT) を行った症例に対し治療直前の蛍光気管支鏡による他病変の検索 (PDD) と, 治療後に定期的な自家蛍光観察 (AFB) を行い, 6 病変を新たに発見した。これらの臨床像について検討を加えた。【対象と方法】1999 年から 2004 年に PDT を行った 12 症例に, 蛍光内視鏡システム PDS-2000 を用いて PDT 直前の PDD を行った。病変部の赤色蛍光の範囲を観察し, 強い赤色蛍光を発生する部位の生検と細胞診を行って病理学的に検討した。治療後は PDS-2000 を用いた AFB により経過を観察した。【結果】PDT の対象病変以外で PDD 時に強い赤色蛍光が観察された 23 部位を生検し, 3 部位を新たに扁平上皮癌と診断した。そのうち, 迅速細胞診で診断した 1 病変と主病変の近傍にあった 1 病変は, 一期的に治療した。残りの 1 病変は後日 PDT を行い治療した。AFB による経過観察中に残りの 20 部位のうち 3 カ所を扁平上皮癌と診断した。そのうち 2 病変は PDT により治療した。残りの 1 病変については経過観察中に扁平上皮癌が消失した。【考察】PDT 時の PDD 併用と AFB による経過観察により, 重複病変の発見率が改善し PDT の治療率が向上する可能性が示唆された。